

各寺の行事紹介

◆届け出寺院のみ掲載

寺院	法座名	日 時	法話者
浄教寺 (東阿閉)	永代経	6月 4日 (日) 10時	速水 馨氏
妙覚寺 (東柳野)	永代経	6月 11日 (日) 10時	長束宣雄氏
双林寺 (西物部)	永代経	6月 24日 (土) 10時	住職
明楽寺 (木之本)	御影道中	5月 5日 (金) 20時	随行教導

五村別院 「五日会連続講座」

日時 6月6日 (火) 午後2時～4時

講師 ^{よつつじ} 四衢 ^{あきら} 亮 氏 (岐阜高山教区 不遠寺住職) 聴講料 500円

講題 「立教開宗—現代を生きる私の課題」

会場 五村別院本堂

「しんらん講座」

日時 5月9日 (火) 13時30分～16時

講師 訓覇 浩氏 (三重教区 金蔵寺住職)

会場 長浜別院本堂 参加費 500円

寺族協議会に9名が出席

去る3月25日 (土) 午後7時30分から教覚寺 (重則) において、寺族協議会が開催されました。この協議会は、住職、坊守、寺族が集い、親睦を深める目的でもあります。

近年は情報交換を中心に協議が進められています。松尾寺族部幹事が司会進行を務められ、お寺を取り巻く課題や問題を話し合いました。家族葬や中陰・法事の在り方、コロナ禍の中で随分お寺の行事や活動の内容が変わってしまった現状など、深刻な問題として受け止め、本来のお寺の

聞法道場としての機能を回復するためには、どうしたらいいか等熱心に話し合われました。また、組の改編も将来考えるべきとの意見もありました。更にお寺の後継者問題も含め次世代へどうバトンタッチしていくのか、難しい課題も提起されました。今後は、このような機会を通じて、課題や問題を共有しながら横のつながりを密にしていくことなどを確認して散会となりました。



「聞法のつどい」に 33名が参加

去る4月2日 (日) 午後2時より、木之本スティックホールで寺族部会主催の「聞法の集い」が開催され、組内から住職、寺族、門徒等が33名参加されました。

講師は満立寺前住職の黒田進氏で、「真宗門徒のよろこび」をテーマにお話しくださいました。

私たちの日頃のよろこびを、宗祖親鸞聖人のよろこびを通して見直すご縁になりました。

真宗大谷派 長浜教区 5・6月号

第24 広報

発行日
2023年5月1日
第213号
発行責任者
組長 高橋 宗明

組同朋大会のご案内

日時 6月11日 (日) 午後2時より

会場 木之本スティックホール

詳細については、追って各お寺にお知らせいたします。
皆様のご参加をお待ちしています。



第3回研修会報告 (青少年部主催)

「おてらであそぼ みんなであそぼ ナニしてあそぶ？」を開催

3月25日 (土) 午前9時30分より圓行寺様 (高月町西柳野) にて、「おてらであそぼ みんなであそぼ ナニしてあそぶ？」 (主催・青少年部会) の第3回目が開催され、子ども園児から大人まで20名の参加がありました。

まず開会式があり、真宗宗歌、正信偈のお勤め、そして高橋組長から挨拶をしていただきました。



今回は「ハスワーク」を行いました。「ハスワーク」とは、紙コップを土台にして、蓮紙 (花びらの形をした韓国の薄い紙) をこよって貼り付けて蓮の花を作るワークショップです。一人につき2個のハスを作ったのですが、1個目は事前にスタッフが用意しておいたセットで作り、2個目は一人ひとり好きな色の蓮紙を選んで作りました。

最初の蓮紙を指でこよる作業は、みんな上手く出来ずに苦労していましたが上級生や工作が好きな子どもはすぐに綺麗な花びらを作っていました。次の土台に花びらを付けていく作業にはコツが必要で、苦労する子どもが多数おり、スタッフだけではなく、組長や大人の参加者の方にも子どもたちのサポートをしていただきました。花びらと、様々なハスの花が完成し、とても綺麗でした。

第4回のご案内 (青少年部主催) ◆◆ナゾときゲーム◆◆—モコ2号救出作戦—

日時: 5月28日 (日) 9:30～11:00 会所: 浄教寺 (高月町東阿閉)

参加費: 無料 持ち物: ねんじゅ・お勤めの本 (赤本)・水筒・ハンカチ・ティッシュ・鉛筆
申し込み: 開催日の1週間前までにお手次のお寺へ申し込んでください。

問い合わせ: 青少年部会長 藤 (妙覚寺・0749-85-2697)

○申し込みがなくても、参加できます。



真宗大谷派 長浜教区第24組 ホームページ
<http://nagahamakyoku24.main.jp>

第2回びっくり仰天講座の報告

社会部幹事 村田利文

3月4日（土）19時より来入寺様（千田）において、第2回びっくり仰天講座を開催しました。土曜日の夜にもかかわらず32名（寺族11名、門徒21名）の皆様に参加いただき「ニンゲンワスレテ イマセンカ ～ウイズコロナの時代に築く人間関係～」のテーマで座談し、講師の難波教行師（本山教学研究所）の講話をお聞きしました。

座談では、「家族葬になって寂しくなった反面費用の面や精神的に楽になった。」「今までの葬儀と家族葬では差が大きすぎる。」「集まった時にコロナ感染が起きたらどうしようと思う。」「以前から葬式は派手であると感じていたの、簡素になってよかったと思う。」「コロナの時代に人と会うことの大切さを痛感したが、以前の法事等のように戻すにはまだ抵抗がある。」「一緒に食事することの大切さがわかった。でもまだ大勢での食事は気が引ける。」「法事に集落内の親戚を招待したら、大変に感激された。」「葬式のくやみ受けは、このあたりの良い風習だと思うが、なくなっている所もある。」「葬儀や法事の果たしてきた役割や意義を感じていながらも、簡素化してうれしい気持ちもある。」といった様々な意見が出されました。また、「このままでは人間関係が薄れていってしまうという危機感を覚える」という意見が多く出されました。「親戚の線引きを再考しなくてはならない」という意見もありました。

先生からは、「いわゆる家族葬で参列者を少なくして、誰を呼び、誰を呼ばないのかなどと考えるのは、人間関係において人を商品のように見て品定めをしているようです。この人は自分にとって役に立つ人だから挨拶しよう、この人はたいした人ではないから挨拶せずに無視しようなどと言うことと同じで、自分本位にものと考え、人間性を忘れていきます。今日のこの会も葬式も法事も、人間関係の大切さを気づかせてくれる場です。コロナで出会うことが難しくなった今だからこそ、人と出会う喜びに気づいていきたいものです。」と教えて頂きました。

最後になりましたが、ご協力頂きました来入寺様ならびにご門徒の皆様にご挨拶申し上げます。



仰天講座に参加して

この講座は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する前に計画されていましたが、新型コロナウイルス感染のためしばらく延期になっていました。昨年からの感染予防対策を取り第1回目が実施でき、今回は第2回目となる講座の開催でした。

はじめに、24組教導の西野氏（充滿寺住職）からこの講座の趣旨説明がありました。

まず参加者を4班に分けてグループ討議を1時間余り行いました。これには講師の難波教行先生も各グループに入っていました。その後、講話に入り主題に基づき人間関係についてわかりやすく話されて、「人との出会いは、水平に出会える心を持つことに気づくこと」が大切であると締めくくられました。人との出会い、人との関係性を考えるうえでとても有意義なお話でした。

（取材・広報部）



自力とは 自分の努力を誇っていく道です 他力とは 努力できる自分を喜んでいく道なのです

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

24組団体参拝報告

この度の慶讃法要に、24組では2回に分けて76名が参拝します。第1回目は、去る3月28日に実施され組内から住職・坊守・門徒ら36名がお参りしました。

午前7時20分に木之本町黒田を貸し切りバスで出発し、高月町西野、東阿閉を經由し、北陸自動車道、名神高速道路を經由して京都へ向かいました。午前中は、井筒八ツ橋本舗に立ち寄り、昼食を伏見の「美ね寅」で済ませ、午後1時前に真宗本廟（東本願寺）に到着しました。すでに全国から大勢の人が参集され、50年に一度の御勝縁にお参りできた喜びで満ち溢れていました。

午後1時から内局の挨拶・慶讃テーマソングの披露があり、1時20分から、勤行が始まりました。今回は阿弥陀堂と御影堂で同時進行という初めての試みで、私たちは阿弥陀堂でお参りしました。ご門首の導師の下で「仏説阿弥陀経」「正信偈」和讃「弥陀成仏のこのかたは」の三首引きで勤まり、堂内割れんばかりの声明に感動しました。

お勤めの後、感話があり、名古屋大谷高校の学生さんが高校三年間の生活を振り返り、コロナ禍の中で人とのつながりの大切さを感じたお話などもなされました。続いて山陽教区の来栖氏から慶讃テーマ「南無阿弥陀仏一人と生まれたことの意味をたずねていこう一」をもとに法話があり、皆さんと共に聴聞しました。

法要後、御影堂へお参りし、その後京都国立博物館へ行き、「親鸞 生涯と名宝展」を見学しました。真宗教団連合が協力し各派の名宝が展示され、宗祖のご苦勞やご生涯を身近に学ぶことができ自然にお念仏が出てきました。

好天に恵まれ、どこの地も桜が満開で春の訪れを感じながらの本山参りで、また、久しぶりに皆さんとの交流の場ができとても有意義な一日でした。

第2回目は4月28日に実施され組内から40名がお参りされます。（取材広報部）



24組合唱団「山河サンガ」結成5周年記念演奏会

～仏教讃歌をあなたに～

日時 6月4日（日）午後1時30分開演

会場 木之本スティックホール ***チラシをご覧ください**

平和のために たたかいが続く 何と愚かなことか